



## 令和8年度県南社会教育主事協議会総会・第1回研修会

5月11日(月)に、大仙市にて、県南7市町村の生涯学習・社会教育担当の職員、社会教育主事等約30名が参加し、開催されました。

総会では、事務局である大仙市教育委員会より、令和7年度の事業・決算報告、および令和8年度の事業計画・予算案が提示され、いずれも満場一致で承認されました。また、新役員体制の確認が行われたほか、秋田県社会教育主事連絡協議会にて「優良職員」として表彰される予定の会員が紹介されました。あわせて、南教育事務所から今年度の県の社会教育施策について説明を行い、各市町村との連携をさらに深めていくことを確認しました。



研修会では、大仙市が世界に誇る地域資源「花火」をテーマに、講話と「はなび・アム」の施設見学を行いました。まず、花火研究家の小西享一郎氏を講師にお迎えし、「大曲の花火は、なぜ世界一と言われているのか?!」と題してご講演いただきました。大曲における花火の歴史的な歩みや、それを支え、発展させてきた地域住民の情熱や気質についてユーモアを交えながらお話いただき、花火が大仙市にとって特別な文化であり、地域の誇りそのものであることが深く伝わる貴重な時間となりました。

続いて、伝統文化継承資料館「はなび・アム」を見学しました。館内には花火の歴史や、色鮮やかに夜空を彩る花火の科学的な仕組み、職人の繊細な技などが幅広く展示されていました。参加者は熱心に見学しながら、大仙地域の伝統文化を保存・継承し、次世代へ発信していく社会教育のあり方について、改めて知見を深めていました。

今回の総会・研修会は、大仙市教育委員会の皆様が担当しました。大変ご難儀をおかけしました。次回より事務局は仙北市教育委員会となります。どうかよろしく申し上げます。

## アドバイザーコラム①

県教育庁生涯学習課生涯学習・学芸振興チーム学芸主事の方に、今後の博物館等施設の方向性についてお話を伺う機会がありました。展示を中心とした従来の役割に加え、社会教育施設として地域課題の解決や地域活性化といった社会的役割が一層求められるようになるということでした。これは、公民館・図書館と共通する部分です。昨年度、県立博物館・県立美術館・近代美術館・農業科学館の県立4博物館施設が連携し、人々の孤独・孤立、障害のある方の生涯学習、高齢者支援などの地域課題に包括的に対応する「みんなのMuseumプロジェクト」を展開しました。今年度県立博物館では、民具に関する貴重な情報を収集しながら、高齢者同士のコミュニケーションを活性化させ、社会的孤立感を軽減させる効果も期待できる「昔の道具で思い出を語るワークショップ」を開催予定です。

今年度のアドバイザーコラムでは、「博物館探訪」として、県南各地の博物館等施設の特別展示に加え、地域を元気にする役割を果たす、社会教育施設としての特色ある実践に焦点を当てて紹介してまいります。